

いしかわり山塾(七尾班) ～ウルトラ大吞調査隊 祭りの謎を解き明かせ～

団体名 ● 地域スポーツマネジメント研究室 / 代表者名 ● 西村貴之(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに

この取り組みは、「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会(事務局：石川県里山振興室)から本学地域連携センターへの委託事業「2022年度いしかわり山塾」の一環として実施された。小学生と大学生がグループで地域内を散策し、地元住民との交流を通じて地域の自然、生活、歴史、文化について学ぶとともに、地元住民自身が地域の魅力を再発見、再確認するきっかけづくりを目指した。主要連携団体は大吞グリーンツーリズム推進協議会、大吞地域農泊推進協議会、七尾市立東湊小学校であった。

活動内容

(1)ウルトラ大吞調査隊 ～祭りの謎を解き明かせ～

日程：2022年10月21日(金)

場所：七尾市南大吞地域内

参加：東湊小学校6年生27名、教諭3名

本学学生15名、地元関係者約20名

内容：南大吞地域内の5町会(大泊、東浜、熊淵、山崎【阿良加志比古神社】、花園)で、小学生と大学生がグループに分かれて調査隊となり、地域の特徴や地元の祭りについて、直接地域住民にインタビューし理解を深め、大吞地域の魅力発見を試みた。



調査隊の活動の様子①



調査隊の活動の様子②

(2)出前授業(事後学習会)

日程：2022年10月28日(金)

場所：七尾市立東湊小学校

参加：東湊小学校6年生27名、教諭3名、

本学学生13名、他関係者1名

内容：大吞探検隊に参加した小学生と大学生がそれぞれ事前に準備した調査結果を発表した上で、これから自分達に何ができるか、どんなことが必要かについて、グループワークを通じて意見を出し合った。高齢化や人口減少のため、町会によっては昔通りの祭りができなくなっていることを知り、祭りや獅子舞の継続に向け、自身が積極的に参加していきたい、地域の人の和やコミュニケーションを大切にしたいといった意見があげられた。



出前授業①



出前授業②

成果、結果の考察

小学生と大学生との関係の中だけで活動を完結するのではなく、「地元住民の関心を高め、関わりを促進する」ことをプロジェクト開始当初から重視した。小学生、大学生が祭礼などの地域行事について話を聞いていくと、どの方々も熱心に当時のことを語ってくださった。と同時に当時を懐かしむ様子が見られた。企画・運営の中心メンバー学生達は複数回にわたる事前訪問を行い、各町会からの協力をとりつけた。この準備プロセスも含めて、地元住民自身が地域の魅力を発掘し直す機会となっていた。

今後の課題、展望

いしかわり山塾(七尾班)の活動は今年度で継続5年目となった。取組みが徐々に浸透し、参画する地元住民も増えてきた。また、この活動に参加し、卒業した小学生、大学生の数も増えてきている。培われた「関係人口」というネットワークを緩やかに保持しつつ、さらなる発展を目指すべく取組みのステップアップを図っていきたい。